

避難所からの情報を自治体で集約し評価する実証実験をしました！

日時：2016年9月23日（金）（13:00～15:00）

場所：摂南大学寝屋川キャンパス7号館6階 第6会議室

参加者：枚方市(11名)・大阪府(3名)の危機管理部署もしくは避難所担当部署の皆様

ファシリテーター補佐：大学院生1名+建築学科学生11名+教員1名（合計13名）

今回の見どころ

建築防災研究室(摂南大学理工学部建築学科)では、SIP戦略的イノベーション創造プログラム「レジリエントな防災・減災機能の強化」の一環として、「被災者のヘルスリテラシー向上を目的とした地域の医療防災ネットワークの構築」を実施しています。今回は、枚方市・大阪府の危機管理室系部署や避難所担当職員、および保健所関連の皆様を対象とした、「避難所からの情報を自治体で集約し評価する実証実験」を実施させて頂きました。災害時避難所の情報を自治体が迅速に集約することが重要なので、今回の実証実験では、スマホやPCシステムを使用しました。

プログラム実施風景



初めに、プログラムの内容や進め方、取り組みなどを説明しました。



避難所で使用する医療ニーズ収集システム（住民用）を使用しました。



マニュアルを参考に、初めてでも簡単に作業できました。



続いて図面上に書かれた避難所状況の情報収集をしていきました。



図面に書き込み、メモを取るなどで迅速な情報収集を試み、PCシステムに入力します。



最後に結果を報告し、感じたことや困難だったことなど意見交換をしました。

プログラム実施結果

今回の実施プログラムで使用した図面は、研究室の4年生が作成したもので、避難所の状況を表すイラストなどを使用しています。参加者の皆様には「わかりやすい」などの声を頂き、訓練でも使用できることがわかりました。災害時にいかに早く、的確に動けるかが勝負になると思います。そのためには、使用図面をわかりやすく作る事が必要だと思いました。また、最も重要だと感じたことは、訓練でどこまで実際の災害時のことを考え取り組むかです。自分が関係した初めての訓練で、自分のイメージとは全く違い、とても真剣な雰囲気でした。

取り組んでいただいた寝屋川市、門真市、枚方市、大阪府の皆様、ご協力感謝申し上げます。
ありがとうございました。